

地域包括支援センター運営協議会の会議結果報告

| | |
|--------------|--|
| 1. 会 議 名 | 平成 29 年度第 2 回松阪市地域包括支援センター運営協議会 |
| 2. 開 催 日 時 | 平成 29 年 10 月 31 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 |
| 3. 開 催 場 所 | 松阪市健康センターはるる |
| 4. 出 席 者 氏 名 | (委員) 志田会長、津田副会長、小林委員、岩瀬委員、高橋委員、日野委員、田中委員、山口委員 計 9 名、欠席 4 名 (地域包括支援センター) 地域包括支援センター職員 計 15 名 (地域振興局) 飯高振興局地域住民課久世課長、飯南振興局地域住民課藤川課長、嬉野振興局地域住民課上阪主幹 (事務局) 高齢者支援課石川課長、介護保険課：田中課長、高齢者支援課松田担当監、地域包括支援係：西山担当監、森本主任、大西主任、稲垣主任、認知症地域支援推進員：奈良 |
| 5. 公開及び非公開 | 公 開 |
| 6. 傍 聴 者 数 | 2 名 |
| 7. 担 当 | 松阪市健康福祉部高齢者支援課 TFL 0598-53-4099 FAX 0598-26-4035 e-mail kourei.div@city.matsusaka.mie.jp |

協議事項

1. 介護予防の推進と総合事業について
2. 認知症地域支援の取組みについて
3. その他

議事録 別紙

平成29年度第2回松阪市地域包括支援センター運営協議会会議録

| | | |
|------|---|-------|
| と き | 平成29年10月31日（火）午後1時30分～3時30分 | |
| ところ | 松阪市健康センターはるる | |
| 出席者 | 志田幸雄会長、津田真副会長、小林昭彦委員、岩瀬晃子委員、高橋道典委員、日野昭義委員、田中宏樹委員、山口直美委員、三宅義則委員 | 計 9 名 |
| 欠席者 | 清水艶委員、竹田和代委員、川上剛志委員、植嶋一宗委員 | |
| 傍聴者 | 松阪市第一地域包括支援センター 4名 松阪市第二地域包括支援センター 2名 松阪市第三地域包括支援センター 3名 松阪市第四地域包括支援センター 3名 松阪市第五地域包括支援センター 3名 | } |
| 一般傍聴 | 2名 | |
| 事務局 | 高齢者支援課石川課長、介護保険課：田中課長、高齢者支援課松田担当監、地域包括支援係：西山担当監、森本主任、大西主任、稲垣主任、認知症地域支援推進員：奈良 | |
| 振興局 | 飯高振興局地域住民課久世課長、飯南振興局地域住民課藤川課長、嬉野振興局地域住民課上阪主幹 | |
| 議事録 | | |
| 事務局 | 平成29年度第2回松阪市地域包括支援センター運営協議会を開催します。 運営協議会委員の委嘱状交付 新任委員の紹介：清水委員、日野委員、田中委員以上3名。 会長・副会長の選任：会長は委員の互選、副会長は会長の指名となっています。如何いたしましょうか？ | |
| 委員 | 事務局一任。 | |
| 事務局 | これまで志田委員に会長をお願いしていました。このまま引き続きお願いしたいのですが、委員の皆さま如何でしょうか？ | |
| 委員 | 異議なし。 | |
| 志田会長 | 平成12年に介護保険制度ができて、平成17年に地域包括支援センターの運営協議会が立ち上がってから13年目に入ります。 5つの地域包括支援センターが立ち上がってくる準備の段階から携わっているが、13年関わってきた委員の方々、ありがとうございます。 また、新しい委員の皆様、よろしくお願いします。 規則の中で第2条の4（地域包括ケアに関する事）が大事だと考えている。 地域包括支援センターの運営だけ考えるのではなく、地域における介護保険以外のサービス、この地域における連携体制の構築、地域包括支援の業務を支える地域資源の開発、現在一番しなければならない地域包括ケア全般に渡った協議をここで行っている。また、他の会議とも連携しながら進めていきたい。 | |
| 事務局 | 副会長のご指名をお願いします。 | |

| | |
|-------|---|
| 志田会長 | 副会長はずっとお願いしている歯科医師会の津田先生にお願いをします。 |
| 津田副会長 | よろしくお願いします。 |
| 会長 | 報告事項、松阪地域の在宅医療介護連携拠点の準備と松阪市認知症初期集中支援チームについて、事務局、お願いします。 |
| 事務局 | <p>資料1、松阪地域の在宅医療介護連携拠点と松阪市認知症初期集中支援チームについてですが、医療的ニーズを必要とする要介護高齢者は今後増加が見込まれる中で、多職種連携を發揮しながら住み慣れた地域で過ごすことができる支援体制の整備を図るということです。</p> <p>平成30年4月に松阪市と多気郡の1市3町に係る在宅医療介護の専門職のための相談支援を行う機関として、松阪地域在宅医療介護連携拠点を設置するよう、現在準備を進めています。松阪地区医師会の協力をいただき、医師会館の1階に事務所を構えます。</p> <p>11月1日から松阪地区医師会から看護師を1名、松阪市から社会福祉士を1名配置し、拠点業務の準備にあたります。</p> <p>優先事項として、医療機関などへのアンケート、個別に医療機関に聞き取りを行う取り組みを行います。地域の医療介護に関する資源把握を進めます。</p> <p>松阪市認知症初期集中支援チームの案内ですが、認知症の心配がある本人や家族への早期支援を図るため、認知症の専門医、保健師と精神保健福祉士を配置した松阪市としての認知症初期集中支援チームを平成30年4月に設置します。</p> <p>チームは医療との連携が必要なため、松阪地区医師会館の連携拠点と同じ事務所の中に設置します。</p> <p>チームは本人や家族から直接相談を受けるのではなく、地域包括支援センターなどの現場からの相談や支援が必要と思われる方への家庭訪問や会議などで支援が必要とする方への在り方を検討するなどの取り組みをします。</p> <p>以上が報告事項です。</p> |
| 会長 | <p>2つの項目を簡単に報告していただいたが、分かりにくいと思います。</p> <p>在宅医療介護連携拠点は、在宅医療がこれから増えてきます。その時に医療、介護職、専門職の方も、どの先生に診察や往診をお願いしたら良いか、医療だけでなく介護もこの拠点によって、切れ目のないサービス提供ができるよう連携するための支援機関と考えたら良いと思います。</p> <p>そのために、拠点にいろんなフレームワーク、地域にどんな訪問看護ステーションがあるのか、どれだけヘルパーさんがみえるか、どんな医師会のそれぞれの先生が往診をしてくれるのか、往診は無理なのか、細かい資源を蓄積し、相談に応じることができるようにする。</p> <p>そういうようなことを立ち上げるため準備中で、平成30年4月から本格的にスタートします。この拠点は、松阪市、明和町、多気町、大台町の1市3町が協力して行っている。松阪の地域包括支援センターだけでなく、多気、明和、大台の地域包括支援センターとの連携を取りながら進めます。</p> |

| | |
|------|---|
| | 報告事項についてご質問などありますか？ |
| 委員 | なし。 |
| 会長 | 認知症の件はこの後出てきます。初期集中支援チームの説明もよろしく申し上げます。協議事項に移ります。 資料2（1）介護予防の推進と総合事業について、事務局申し上げます。 |
| 事務局 | 介護保険法の改正によって新しい総合事業が始まっています。一人暮らしの高齢者の方や高齢者のみの世帯の方など介護や生活支援を必要とされる方が、以前より増えている。 今後も増えていくということで、地域の中で介護保険の従来のサービスだけでなく、住民主体のサービスを取り入れながら多様な種類のサービスを増やしていくため、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターを各1名ずつ配置している。 平成27年4月から配置して3年目になります。 生活支援コーディネーターと高齢者支援課が一緒になって地域の住民に、住民主体の集いの場が必要であるといったことを広げるための活動をしている。 現在、各包括が運動や認知症予防、栄養の目的などテーマを掲げて住民の自主グループの支援をいただき市内70か所以上で行っている。 平成28年11月から総合事業の中で、住民主体の集いの場で新たに立ち上げるところへ市から開設補助を出す制度が始まった。 別紙の図は、各包括支援センターが支援をして開設された集いの場になっている。（1番から74番まで） 平成28年11月以降新たに介護予防集いの場が広がってきた。 地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが核となって地域の方と動いているという経過がある。 その点について各包括のコーディネーターから発表をいただきます。 |
| 会長 | 生活支援コーディネーターの方、第一から第五までいますが、私、あまり接点がなく、地味に活動されているので自己紹介から申し上げます。 |
| 第一包括 | 私は、10年程ケアマネジャーを経験して地域包括支援センターで生活支援コーディネーターとして2年経過した。 会長から地味に活動していると言われたが、着実に前に行けるように自分なりのペースで動いている。 第一地域包括支援センターの管内で開設補助を受けている団体が2か所、「なかよしさくら会」（春日町）と「やすらぎ会」（久保町）があります。 第一地域包括支援センターでは、看護師や保健師が担当地域内にある自主グループ15のうち14の介護予防のための自主グループに月に1回ないし数か月に1回訪問して運営の支援をしている。 そのつながりでいきいきサポーターをしている春日町に住んでいる方から看護師を通じて相談があった。 このサポーターは、第一包括で開催したサポーター養成講座を修了し、同じ春日町にある運動の自主グループ「春日の会」のサポーターとして運営している。 相談の内容は、春日町に気軽に寄れる場所を作りたい、時期は今年の4月に開催したいと考えているということでした。 |

自治会長から自治会やまちづくり協議会から補助金を出してもらえる話が出た。その他総合事業から補助してもらえる話を聞いたので、手続きなどについて、他のサポーター3名と一緒に説明を聞きたいということでの相談でした。

宅老所については、社会福祉協議会に相談した。担当者から第二地区のまちづくり協議会の計画の中に5つの宅老所を作るという計画があることもわかった。

一旦高齢者支援課の担当者と社会福祉協議会からの補助の説明の時間を作った。

結果として、総合事業の集いの場の開設資金の申請をすることになった。

自治会に加えてまちづくり協議会の補助を受けて開設することとなった。

開設にあたっては、地域に配布するチラシを作ったり、開設資金の申請に必要な会則、年間計画の作成などの手続きをしていた。

地域包括支援センターからは、生活支援コーディネーターだけでなく、自主グループを支援している看護師も一緒に年間計画も考えて、講師派遣など手伝いができることなどを提案したり、開設補助を受ける見積もりなども包括支援センターを通じて高齢者支援課に相談するなど橋渡しした。

会を運営していくには人材が必要で、サポーターがいてその思いに賛同するサポーターがいて設立につながった。

最初は週1回の予定であったが、無理をせずに月1回開催するよう進めた。来年以降開催回数を増やしていけるようにしていきたいとサポーターは考えている。

次に久保山町の「やすらぎ会」への支援の報告です。

総合事業の開始に伴い月2回の宅老所から住民主体の通所型サービスに移行された。

この会は、地区に住んでいる元看護師の方が平成18年11月に立ち上げられ、目的は、久保山地域で独りぼっちを作らないということで始められた。

やすらぎ会からの相談のきっかけは、高齢者支援課で平成28年に総合事業の地域づくり懇談会を開催した時に民生委員・児童委員の連絡会で包括から参加を呼び掛けて、やすらぎ会の支援者の方が参加されたことでつながった。

現在月2回開催しているが、週1回の住民主体の通所型サービスBに移行したいという相談であった。

具体的には、資金面と地域限定で実施したいという相談であった。この点については高齢者支援課へお願いして、自治会の理解を得たうえで、地域限定で良いということで、手続き等の説明に行っている。

やすらぎ会はボランティアの方が7~8名いて、利用している方は20名程度、現在80代の方が殆どで、送迎の必要な方5~6人いる。

開催が月2回が週1回になったことで、送迎の回数も増えて仕事の合間を縫って送迎されているボランティアの方もいる。

やすらぎ会は看護師で、健康運動指導士の資格を持った方がしておられ、内容が盛りだくさん。

今では地域に根差した会になっているが、開始された当初は自治会に理解されるのが大変であった。開催ごとにチラシを作って呼びかけを行った。

この会には認定を受けてデイサービスを利用されている方も続けて参加されている。

地域とのつながりを切ることなく、地域で生活している。認知症が心配される方については、地域の方が声掛けして参加を促したりしており、地域力の高い地域です。

| | |
|------|---|
| 第二包括 | <p>「はねだうきうきサロン」について紹介します。</p> <p>2つの宅老所が活動している。女性の参加者が多く男性の方は、参加は拒まれる方が多かった。</p> <p>自治会内の誰もが参加できるように自治会全体で健康寿命を延ばす活動をしていく思いから新しくサロンを開催することとなった。</p> <p>今年の1月から活動を開始し毎月第二水曜日の午後1時から2時間程度の活動で整理体操を中心にしている。</p> <p>様々な専門機関の方の協力を通じて自治会長中心に活動をしている。</p> <p>「さつきひろば」を紹介します。</p> <p>中川地区の民生委員をされた方が中心に自治会と相談して開設した。</p> <p>一般介護予防事業の開設補助を受けて立ち上げた。</p> <p>以前から宅老所のある地域であったが、宅老所に参加しにくい人が集まれる場所になればという思いから活動された。</p> <p>毎月15名程度が集まって1回100円の参加費を集めて創作活動、認知症予防につながるレクリエーションや体操など取り入れながら行っている。</p> <p>女性だけでなく男性の参加者もある。</p> <p>民生委員やサロンのボランティアの方が一緒になって活動の内容を決めている。地域包括支援センターとしても支援できるよう話はしているが頼らず、主体的に活動いただいている。</p> |
| 第三包括 | <p>4月から異動で第三包括の生活支援コーディネーターをしている。</p> <p>3月までは、社会福祉協議会、殿町にある福祉のまちづくり課で地域担当として勤務し、地域に関わらせていただく中で地域の人と接し楽しく過ごしてきた。</p> <p>第三包括で立ち上がった「下滝野のサロン」を紹介します。</p> <p>平成29年4月に立ち上げ、活動する部屋にエアコンを付けたいということで開設補助を受けた。</p> <p>開催日は第二火曜日の午後1時から3時まで、きっかけは自治会や老人会の集まりではなく、もう少し気軽に立ち寄れる場所ということで地域から声があがり下滝野の区長を中心に立ちあがった。</p> <p>声掛け等の協力は、老人会やサテライト、ボランティアを通じて行っている。会費は無し。登録人数は22名。</p> <p>毎回15名程度の参加がある。メンバーは固定で飯高地区だけでなく飯南地区の方も参加している。60歳以下の方も参加することで老人会の縛りはない。</p> <p>内容は、歴史勉強会、防災食づくりなど、様々。</p> <p>年間の予定は4月に決めているが、サロンが終了した後に参加者の方で次回の内容を話し合っで決めている。</p> <p>コーディネーターとして地域の住民と関わり、居場所づくりということで取り組んでいるが、第三管内での難しさは、代表者の方の負担が増えることと、人材発掘が難しく、新しい場所づくりが難しいという声が聞かれる。</p> <p>このサロンの話を区長から聞く中で新しい場所づくりに大事なことは、地域の様々な場所をつながりを持つことの大事さ。</p> <p>いろんなところでつながりを作っておくことが地域の中で理解を得られやすい。</p> |

行動力を持つことが大事だと感じた。

どこの地域も男性の参加が少なく呼びかけも難しいが、参加者の中で元教師の方が歴史勉強会をしており、得意分野を活かしていくことで男性の方も寄りやすくなっている。そういった取り組みが素晴らしいと思った。

総合事業が始まったことで、住民主体の流れを地域の方に伝えている。

住民主体が地域の人には理解が難しく、新しい場所づくりを作っていく上で大事なことは、地域をよく知ること、地域の中で活動していくことの楽しさというのを感じてもらおう支援を行い、地域と関わりを持っていければいいと感じている。

第四包括

生活支援コーディネーターとして地区に入る時にキーボードなど持って歌の伴奏をして音楽を通じて、楽しみながら地域に入っている。

自主グループの「くろべ元気クラブ」の紹介をします。

平成28年9月から開始し、場所は黒部地区のふれあい会館で毎月第二土曜日に行っている。

10月14日にウォーキングを開催し、地域住民の方30名が参加された。

元気アップリーダー、介護予防いきいきサポーターの方が先導され、自治会長が青パトロール車を運転して緊急時に対応する役割を担った。

地域の方が健康づくりを目的に集いの場を定期的に開催して熱心に活動している。

「高木いきいきクラブ」ですが、平成28年11月18日から開催している。毎月第三金曜日に高木公民館で月1回実施している。

地域の交流や健康づくりを目的におしゃべりをしながら体操等を行っている。プログラムとしては健康体操、脳活性化を目的にレクリエーションを行っている。

代表者が太極拳、気功の先生をしていて、会の中でも太極拳を取り入れながらやっている。

開設当初の11月12月は、包括支援センターが後方支援してストレッチや脳トレゲームの支援をしている。

平成29年度は、2月、3月、6月にストレッチ、体力測定、認知症サポーター養成講座など保健師、社会福祉士等で後方支援という形で関わっている。

「サロンどみなと」港地区で開催し、介護予防や交流を目的に月1回港地区市民センターで実施している。

内容は、毎回参加費を100円払って飲み物とお菓子を飲食しながら談話やレクリエーションや体操など行っている。

会の運営は港地区の民生委員、児童委員が中心になって行っている。

港地区は広い地区ではあるが、狛師町少し遠い海側の方も自転車等で参加し、参加者も広がっている。

「わいわいサロンいなぎ」の紹介。

稲木町公会堂で毎月第三金曜日に開催している。

内容は健康体操、脳活性化を目的としたレクリエーションを行っている。

公会堂の階段の段差があり上り下りが大変であったが、補助金で段差の解消ということで、手すりの取り付けを行った。

会の特徴は参加の方が笑いながら楽しむことを大切にして、会の代表の方が、参加者の中から毎回笑える話はないか声掛けをして、笑い話ということで披露したりしている。

男性の方の参加も多く、受付を行ったり趣味の手品をしている。

「スタジオゆうゆう」 西野々町

内容は健康体操、交流を目的に第二、第四火曜日に開催している。

会の代表の方が自宅の農機具の倉庫を改装して開設した。

補助金を利用してエアコンの取り付け、フィットネス器具の購入をした。

年代は60～80代で男性2名、女性8名10名が参加している。

プログラムとしてはDVDを見ながら全体で体操を行った後、フィットネス器具等を使って自主的に行っている。

第五包括

義肢装具士とケアマネの資格を持っており、第五包括でケアマネジャーと生活支援コーディネーターをしている。

「サロン優」 1年半前ぐらいに立ち上げた時に包括に相談があった。予防運動や体操の支援に保健師が介入し、その後、私に関わっている。

民生委員が代表となって、その方が担当する独居の方、高齢者の方に声をかけて、その方の旧宅を利用しながら活動している。

スタッフやメンバーの知り合いを頼って先生を呼んだりして、毎回企画して楽しみながらしている。

会の催しとして毎週月曜日に麻雀に没頭していると聞いている。

最初包括の依存が高かったが、今はちょこちょこ顔を出しているが、いつも1回の開催が大変と言いながらも、皆さん笑顔で楽しんでいる。

「五反田町サロン」の紹介です。

これまでクラフト、ラジオ体操、DVD鑑賞とかしていて、自立していろんな活動をしている団体です。

以前から包括による出前講座、認知症サポーター講座開催などの関わりもあって、市の懇談会にも参加してもらっており、相談につながった。

隔週の金曜日にサロンを開設したいという要望があり支援している。

この12月に毎週開催で頑張っていく。

この団体は、今年度から老人会、自治会、子ども会と同じ並びになって、連携しながらやっていきたいという要望があった。

この五反田町の方々は、寝たきり高齢者をこの町から出さないという信念をもって活動している。

「おはようサロン」の紹介です。

介護事業所の一角が一般開放される情報があって、その地区の元気アップリーダーの方が始めたいということで話があった。

サロンの名称、一年間のスケジュール、初期から関わって、開設補助にも関わった。

開催時は思った以上にメンバーが集まり嬉しい悲鳴でスタートし、我々も声掛けして現在楽しく開催している。

「ゆめ」の紹介です。

ケアマネから相談があった。担当の家族からサロンをやりたいという相談があった。

立ち上げ時から関わっている。かなり賑やかで代表者の家の一角を使って活動している。

ビンゴなどして活動して皆さんの笑顔が印象的です。

開設補助はエアコン、いすなどです。必要なものを設置することができ、非常に喜んでいきます。

| | |
|----|--|
| 会長 | <p>第一から第五までの生活支援コーディネーターさんに報告をいただきました。最初に地味なんて言ってごめんなさい。地味どころか積極的に頑張っていたいています。</p> <p>協議事項なので、委員の皆さま、ご意見、感想でも結構です。ありましたらお願いします。</p> |
| 委員 | <p>非常に活発に活動していただいています。勉強させていただきました。</p> <p>介護予防のための自主グループという名称ですが、介護予防にもいろんな団体があります。</p> <p>年齢も高齢ではなく、元気な方が集まっているような感じがします。</p> <p>それも大切だと思う。地域で一人暮らしが非常に多い。男性の参加が非常に少ないので、地域で集まる場というのは大切です。</p> <p>本当に包括の方が頑張っている。地域には別にいろんなところで集まりがある。</p> <p>高齢の方で自分の字、小さい単位で寄り集まって編み物したりおしゃべりしたり、包括が頑張ったところで埋もれているところ、もっと生活に身近なところで集まる。</p> <p>例えば、私は嬉野ですが、昔は6つの村が合併して嬉野町になったが、その6つの村の中には、歩ける範囲で集まれる、気さくなグループがあると思う。そういうのも把握して欲しい。</p> <p>そして、そこで抜けているところ、包括が手を差し伸べていただけると松阪市全体が、全体が全部できると思いませんが、いろんな段階のテーマはなくても集まるということが大事だと思う。</p> <p>穴を埋めて頂くように活動していただくとは有難い。</p> |
| 会長 | <p>隙間があるといけないので。</p> |
| 委員 | <p>聞かしていただいて、いろんなサロンが作られて、委員が言われた集いの場が全体にまだ徹底されていないことはある意味良いことだと思う。</p> <p>補助金を出す限りは、介護認定率をどう下げていくか、その方々にどのような効果を期待して進めるか、地域の目標を持つことである程度進める、財政的に援助している限り、必要な事ではないかと思う。</p> <p>これからの高齢者に対して、いきいきと生活していくための環境づくりは大切なことで、一つの目標、課題を持ったり、前年度に対してこんだけ下がったとか、こういう形になったという数字を掴むのも大事な事と思う。</p> |
| 委員 | <p>私は第五地域包括支援センターの中なので、全体にこんなに立ち上げている認識はなかった。</p> <p>いろいろと活動をしていただいていると認識した。</p> <p>先ほど委員が言われたように男性が少ない。男性の方を集まっていただくにはどうしたらいいのか？</p> <p>第五地区で今まであった「しろやま倶楽部」と「おはようサロン」新しく立ち上げて頂いた「おはようサロン」、どちらも男性が少ない、元気な方は来られるんですが、もう少し出にくい方はどうしていけば良いのかということと、地区全体で集まっていただく場合と、地域地域で集まっていただく場合、移動手段がなくて寄りにくい、</p> <p>限定した話ですが、「しろやまクラブ」はある程度広範囲の中で集まっていただいています、包括支援センターの方が車を用意していただいて、連れてきていただいている。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>今回立ち上げて頂いたおはようサロンは、ローカル的な近所の方が集まってくる、20名ぐらいの方が集まってくるということを考えると、もっとローカル的に集まりやすい場所を提供して頂けたら、いろいろと集まっていただけかという感じを受けた。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。他にいかがですか？</p> |
| 委員 | <p>沢山のサロンの運営、包括さん大変だと参加して思いました。</p> <p>第一包括のコーディネーターの方が言われた一人が欠けるとサロンが続かない。サポートするメンバーがないというのがあるが、中々立ち上がっても続かないというのあって大変な事も感じたり、第三包括の方が言われたいろんなサロンに限らずグループとどうコミット、結び併せていくかというのが大事ではないかと感じた。</p> <p>60歳以下の方も参加されているという話もあったが、今サロンを運営されている方があと10年経ったら運営できるか、難しい問題が出てくる。</p> <p>地域で子育て世代が活動していたり、お茶会、飲み会だけというのも結構あると思う。如何に地域でどう組み合わせしながらメンバーを巻き込むかが大事。そこが一番難しいところと感じた</p> <p>勝手な意見になるかもしれないが、介護保険の認定を受けた方、介護を受けられている方を支援させていただいているが、介護を受けている方も何らかの役割を求められている、支援されるより支援したい気持ちがみんなあるので、何か役割をつけましょうというのが、ケアマネジャーとしてもいつも考えている。</p> <p>では何ができるかというところとデイサービスに全部プランが用意してあって、その中に乗っていく感じで、中々自主的にというのが、全体では非常に少ないというのがある。</p> <p>サロンに参加されている方で、昔講師されていた方はかなりできますし、僕らも勉強させられる人がたくさんいます。</p> <p>組み合わせを変えることによって、ある日はサロンの講師、ある日は介護の支援してもらうのを組み合わせれば、先ほど認定率に話が出ましたが、認定率を下げていくのは難しいところもあるが、逆に認定された方が少しでも違う方向で実施できれば違う展開も出てくるのではないかと漠然とお話聞きながら勝手に思わせていただいた。</p> <p>地域地域の問題もあるし、エリアも、第三包括のエリアですが、確かに移動手段がなくて集まってくる、次の一軒に行くのにどんだけ遠いかというのはあるので、非常に大変等感じはします。</p> <p>課題もあるが、地道に一步ずつが大事かと思う。</p> <p>今後もし指導いただきながらケアマネ協会としても一緒に動けたらと思います。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございます。他にいかがですか？</p> <p>歯科医師会、薬剤師会、医師会の先生方がでしょうか？</p> |
| 委員 | <p>一月前に檀本先生をお招きして講演をしていただいた。話の中で医療に限らず幅広い視野で地域をみななければいけない。</p> <p>元気な高齢者の方が生きがいをもって自分が支えられるような地域になれば良いと、漠然と思っていた。</p> <p>いろんな報告を拝見すると、元気な方々が松阪には一杯いるのだということが分かりました。</p> <p>そういうお元気な方々の仕掛けづくりを包括の方がやられた部分があるだろうし、自然と沸き起こってきたサロン、集いもある。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>そういうところをきっかけにしてサロンとか集いの場を乗り越えた、もっと広い意味での人と人との触れ合いのきっかけになる可能性は凄くあるのだと…</p> <p>今、男性の方の参加が少ないとかありましたが、こういった雰囲気がある地区にあることによって、このサロンに参加されていない方々にもそういう地域に力があるならば、いろんな方が自分らはこれができる、それぞれの特色、元気な方が社会に関わっていく、そういうパワーが地域にあるのかと思いました。</p> <p>そういうことでサロンがきっかけでみんなが地域に関われるような雰囲気ができてくる、そういう妄想も可能かと思いました。</p> |
| 委員 | <p>元気な高齢者が社会に貢献していく、そういう理想を作っていく生活支援コーディネーターの方々の努力によって、地域住民の自主グループの方が自主的にされていることが説明を受けてよく分かりました。</p> <p>いろんな問題はあると思います。男性の方の参加者が少ないとか…</p> <p>この自主グループに出られない人、地域になじめない方とか、結婚して地域に来たけど旦那さんが亡くなって、地域からよそ者扱いを受けることがある。</p> <p>高齢の方一人では参加されない方もあると思います。</p> <p>皆さん同じようにというのは難しいか分かりませんが、包括支援センターの支援をお願いしたいと思っています。</p> |
| 副会長 | <p>地域資源の発掘、その活性化。男性の方の参加率を如何に上げるか、発表から頭に残ったキーワードです。</p> <p>はねだ地区はどうして男性の方の参加が多いのだろう？久保山町の葛藤の中で自治会がブレキになっていた事例もあった。</p> <p>資源ということで言ったら、実は私ふっと思ったのは、祇園祭り、各町で神輿が松阪市内にはありますが、そこでは男性が集まってきます。</p> <p>子どもも神輿を引くとさーっとどこかに行ってしまう。</p> <p>新しく入られた方もお祭りということで参加するが、お神輿を引くのが終わると帰られる。</p> <p>折角接点ができなかったのにと今ちょっと思いました。</p> <p>地域の男性が、或いはその後ろには子ども達、奥さん方も結構集まっているので、これからのつながり、元々あるものをしっかりと形作るようなアップをしてあげてはどうかと思いました。</p> <p>男性が出やすい催しがありまして、例えば、実現できるかどうかは別ですが、たき火をするとかキャンプファイアをするというのをすると、男の人はワシがワシということが出てくる傾向にあるようです。</p> <p>そのように思いました。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございました。まだまだご意見を頂きたいのですが、次のところに移って、その後でも結構ですのでよろしく申し上げます。</p> <p>次に移ります。</p> <p>認知症地域支援の取り組みについて、事務局、申し上げます。</p> |
| 事務局 | <p>7月に開催した運協で、29年度の事業計画を各包括から出していただいている。</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>この中で認知症の人や家族を地域が一体になってどのように支援をしていくかという取り組みと目標について、各包括が計画したことに対して、今年度どのような取り組みがあるかということ報告していただきます。</p> <p>先ほどは生活支援コーディネーターの方からの報告であったが、今度は認知症地域支援推進員（28年度から各包括に1名ずつ配置）の方から報告をいただきます。</p> <p>推進員の方から報告をいただきます。</p> |
| 会長 | <p>生活支援コーディネーターよりもっともっと地味な認知症地域支援推進員から報告をいただきます。</p> |
| 第一包括 | <p>包括のいろんな職種の方と関わって一歩ずつ前に進んでいます。</p> <p>今年度の取り組み目標は、資料3に掲げています。</p> <p>目標を元に今年度、実施または実施予定の事業を説明します。</p> <p>今年度作成した認知症ハンドブックは、総合相談だけでなく高齢者安心見守り隊や認知症サポーター養成講座開催時に配布し、内容はピックアップして説明している。</p> <p>認知症サポーター養成講座や高齢者安心見守り隊養成講座は、定期的を実施したり、講座案内チラシを作成して地域にPRして開催している。</p> <p>しかし、受講される方の多くは高齢であるため、自身の認知症予防を目的に受講される方も多く、見守り隊への登録数は、伸び悩んでいるのが現状です。</p> <p>実施後のアンケート結果から、地域での横のつながりの必要性を感じ、自分なりに考え行動している方が多いということが分かってきた。</p> <p>高齢者安心見守り隊に対するフォローアップ研修は、以前より希望のあった声のかけ方について考える研修会を実施した。</p> <p>参加者で様々な意見を出し合えたことで、多くの学びもありました。</p> <p>予定はしていないが、見守り声掛け訓練につなげていくことを視野に入れ開催しました。</p> <p>高齢者安心見守り協力店の現状把握、高齢者見守り隊フォローアップ研修の中で話し合い、高齢者安心見守り隊の方と回ることになりました。</p> <p>キッズサポーター養成講座は、昨年度に引き続き今年度も新たな1校で開催しました。</p> <p>これまで開催していた3校についても継続して実施し、小学校については、来年度以降の開催に向けて残りの1校に引き続きアプローチしていく予定です。</p> <p>キッズサポーター養成講座は、4校共に寸劇のキャスターは地域の方にいただき、グループワークに入ってもらい、地域の方に様々な形で協力していただいで開催することができている。</p> <p>受講者である子ども達や学校の先生からは、地域の方に入ってもらい、親しみのある暖かい講座であると言ってもらっている。</p> <p>認知症カフェは、担当地区内では複数の認知症カフェがあるが、その中でも市民の方で頑張っている松老連主催の介護者カフェに後方支援として参加している。</p> <p>継続開催に向けて意見交換などを行っている。</p> <p>今後に向けての課題もみえてきた。</p> <p>今年度実施した全体の評価として、高齢者安心見守り隊や認知症サポーターの受講者数は年々増加してきており、地域の方の認知症に対する関心が高くなっていることが分かった。</p> <p>高齢者安心見守り隊の登録者数は、少し伸び悩んでいる。</p> |

認知症に対する地域の方の感心は高く、キッズサポーター養成講座をはじめ認知症関連事業においては、まちづくり協議会や民生委員の方やキャラバンメイト高齢者安心見守り隊、地域の介護職員と協働して進めている。

一つの事業をきっかけに地域とつながり、様々な事業につなげることができた。

認知症地域支援体制の構築にもつながり始めている。

来年度に向けての課題は、担当地区すべての小学校へのキッズサポーター養成講座の開催に向けて地域の方との連携や継続した関わり、見守り協力店については、今回の現状把握でみてきた地域課題もあり、地域を知るきっかけとなるため、200店舗近い協力店とどのような形で、継続した関わりを持っていくかになります。

松老連介護者カフェに対しては、年々内容が魅力的なものとなっており、支援センターとしては後方支援として関わり、参加者が増えるようにともに頑張っていきたい。

第二包括

自分は相手の話を聞くように心がけている。

今年度の目標は、高齢者安心見守り隊養成講座とのつながり、認知症サポーター養成講座の実施とそれを受けていただいた隊員の方とのフォローアップ

認知症カフェの周知と参加しやすい環境づくりになります。

認知症ハンドブックは、包括支援センターに相談に見えた方や住民の方に配布している。

小野江で行った見守り声掛け訓練では、参加者全員に配布した。

包括のPRの際にハンドブックを周知して、少しでも多くの地域の方に知っていただくことを心掛けたい。

認サポキッズに関しては、4月から8月まで毎月1回行った。合計130名くらいの方に受講していただいた。

8月に行った一志東部郵便局の認知症サポーター養成講座は、3年ほど前から郵便局から声をかけていただいている。

郵便局員皆が受講し、オレンジリングを持っていただいている方が少しずつ増えている。

認知症かもしれない方がみえたという相談も郵便局からあった。この養成講座がこういった方への支援にもつながったと感じている。

安心見守り隊に関しては、嬉野、三雲でそれぞれ2回行った。9月には第五包括と一緒に圏域をまたぐ西部地区の安心見守り隊のフォローアップを行っている。

立ち上げたばかりの嬉野の見守り隊のフォローアップは、下半期に実施する予定です。

安心見守り協力店は、三雲の4つの地区で地区ごとの見守り隊は、自分たちの地区内にはどういった協力店があるか話し合っていたら、各地区の協力店の依頼を見守り隊の方と一緒にいった。

今まであったところと新規に開発したところ、それぞれあります。

その他の担当地区については、包括支援センターの職員が協力店へ行ったが、実際には閉店したりこれから店を閉めるといったことが多く見受けられた。

三雲で新規の協力店、継続した協力店として活動をしていただけるように毎年度、見守り隊の方と一緒に回っていきたいと考えている。

その他の地区に関しては、見守り隊フォローアップを行ったうえで、協力店の話も進めていきたい。

声掛け訓練は、三雲の小野江地区で、三雲地区としては3回目となる声掛け訓練を行った。27年度、28年度に続いての開催となったが、今回は小野江地区の見守り隊の方が中心となって動いていただいた。

この訓練を行うにあたって地元の住民協議会、公民館、自治会に協力いただく中で、声掛け訓練ができた。

また、訓練を行うにあたり認知症サポーター養成講座、見守り隊の養成講座を行い、見守り隊には新たに2名の方が参加いただいた。

来年度4回目を予定しているが、地区の中で順番に開催していきたいということが、見守り隊の考えです。実施できるよう包括支援センターも関わっていきたい。

認知症カフェは、嬉野の社会福祉センターで月1回開催している。

3～7名の参加人数で、主に茶話会で、包括支援センターからの情報提供を行っている。

4か月に1回アロママッサージのボランティアの方にきていただき、リラックスできる場所の提供している。参加者の情報共有ができ、これからもこういった活動を続けていきたい。

全体目標に対する評価と課題は、三雲地区は見守り声掛け訓練を行うにあたり、2回にわたって認知症サポーター養成講座、安心見守り隊養成講座を開催することができた。

嬉野では、高齢者安心見守り隊を作ろうという思いから、2回のサポーター養成講座、高齢者安心見守り隊養成講座を開催することができた。

それぞれできた見守り隊に関しては、定期的なフォローアップをしていきたい。

現在、見守り隊の活動は三雲の方が少し進んだ取り組みをしていると感じている。そういった取り組みを参考に他の地域でも地域に合った活動をフォローアップできるように考えている。

認知症カフェは決まった方が参加しているので、他の方にも知っていただけるよう環境作りを行い、周知などしていきたい。

第三包括

事業の目標と実施状況は資料を参考してください。

認知症サポーター養成講座を飯南地域で2か所、飯高地域で1か所、飯南、飯高の民生委員対象に開催した。

若い世代の方が少しでも多く受講していただけるように実施した。

民生委員、見守り協力店の方から紹介していただき西部商工会の方も受講していただいた。

少しずつだが新たなつながりが形成できてきたと感じている。

商工会関係の方から認知症の方を含む高齢者の情報を入れていただけるようになった。

第三地域は、過疎、高齢化が特に進んでいる地域で、高齢者安心見守り隊など地域をサポートしていただく側に立つ方の高齢化が課題となっている。

一方で、その方自身のやりがいにつながっていたり、新たな支援者になりうる方へのパイプ役を担っていただいていることもあるので、その人材を大事にして地域の認知症の方の支援の輪を広げていきたい。

安心見守り隊の協力を得て今年度から見守り協力店の依頼に一部一緒に回らせていただいた。

春には0であったが、10月には22店で協力をいただいている。今後も協力店の趣旨を説明し、認知症サポーター養成講座の内容も説明をしながら、理解を得たうえで協力店になっていただけるようにしたい。

今年度、地区福祉会や住民協議会などの団体とも、見守り隊フォローアップ研修や介護者カフェなど関わりを持つことができたので、継続して事業に対する意見を賜りながら、認知症の関心を持っていただけるよう地道に増やしていけるように努力していきたい。

第四包括

事業計画は資料のとおりです。

高齢者安心見守り隊のフォローアップ時に説明して、見守り安心隊の方に配布している。ハンドブックはただ配布するだけでなく、内容を説明して理解していただき渡している。

相談先、認知症になってどのような経過をたどっていくのかを説明している。

参加者には、近所の方で認知症が出てきているが、家族がどこまで理解しているのかわからないということが見受けられるので、家族にしっかりと知っていただくために、ハンドブックを家族に渡した。

認知症総合相談、包括支援センターで受けているので、相談先、サービス、支援が受けられるのか、家族は心配があると思うのでハンドブックを使いながら説明している。

上半期では安心見守り隊のフォローアップ時、総合相談時に活用しながら配布してきた。

認知症サポーター養成については、小さな宅老所、自主グループ、自治会で開催している。

認知症サポーター養成講座と安心見守り隊養成講座の同時開催、日を変えると受講できるか難しいので、地域の実情に合わせて同時開催を考えていきたい。

キッズサポーターについて、漕代小学校、ラン伴と絡めながら児童に気づいていただくようにした。

児童に対して認知症について話すより寸劇を通して知っていただくよう工夫している。

開催に向けて小学校の校長と話しながら実施している。

見守り隊については、地域の実情等合わせながら開催、見守り声掛け訓練を絡めながら実施している。

地域の中で一人暮らしの方、認知症の方が増えてきていることは地域の方は実感している。

何かできないか地域の方も考えている方もみえ、三雲の声掛け訓練に参加している方もおり、第四地域でも実施した。

見守り声掛け訓練をする前に、サポーター養成講座、安心見守り隊養成講座を実施した。

安心見守り協力店については、以前マップ作りの調査で廻っている。その中で安心見守り隊フォローアップを開催した時に地域の方が店で聞き取りしたりしている。

後は社会資源を把握するためにお店の状況などを聞き取りしたりしている。

以前、行方不明の方があったが意識の高いお店もあった。

見守り声掛け訓練は、東町で一人暮らしの方が増えている中で自治会として取り組みをした。

その後を受けて住民協議会も取り組みとして11月24日に開催を予定している。

自分自身が年を重ねていく中で、この地域に暮らしていく上で地域づくりを絡めて実施している。

認知症カフェについて、包括の圏域内でカフェがあって、その開催支援をしている。

ハンドブックを使って認知症について知っていただく、

安心見守り隊のフォローアップ開催時にカフェ体験ということで、認知症カフェに絡んで集いの場など関連付けながら参加者に体験していただいている。

その他ですが、10月19日にラン伴、認知症の方、認知症の家族を応援するイベントを実施した。ルートは第四包括圏域を通るため、安心見守り隊の時に案内したり、地域の自治会等に紹介したりした。

地域の方が中継所に来ていただき、漕代小学校でランナーと子どもと一緒に走る計画をしていたが、天気が悪く実現できなかったが、関心を高める取り組みをしている。

全体の課題・評価ですが、認知症についてサポーター養成講座、若い方に聞いていただく機会がありません。自治会等で開催すると40代50代の方が聞いていただいている。そういった方にも聞いていただける取り組みをしていきたい。

キッズサポーターについて、学校の行事があるので、学校側の都合を考慮しながら実現に向けて取り組みしていきたい。

見守り隊を活用しながらラン伴に参加していただいた経緯もあるので、認知症の家族の方等今後も支援していきたい。

第五包括

これまでの培ったいろんなノウハウを生かしながら支援に結び付けていきたい。

今年度の目標は、認知症高齢者安心見守りネットワークの構築に向けた取り組みとしてサポーター養成講座の開催、安心見守り隊養成講座の各地での開催。

認知症ハンドブックに関しては、認知症についての相談者に認知症の状況や利用できる制度等説明資料として配布している。

安心見守り隊養成講座などでも配布している。

認知症の症状やサービス等を説明するためのツールとして非常に便利なものとなっている。

認知症のことで相談に来られる方は、月平均すると1～2名程度と少ないが、支援が停滞している認知症困難ケースなどに活用している。

認知症サポーター養成講座など認知症に関する講座を開催するときにも介護や支援に関わる第一歩として配布していきたい。

包括支援センターが認知症に関する相談の受付をしていることを啓発したいと思っている。

認サポとキッズサポーターに関しては、各公民館区で認知症サポーター養成講座を開催している。

今年度は7月に花岡、9月に大石で開催した。

特に花岡地区は認知症に対する関心が高く、53名の方が受講した。

都市部と農村部で参加者の構成に違いがあって、都市部では認知症に興味があって参加する方が多いです。

農村部に関してはリピーターが多く、新規の参加者が低い。

開催場所は市民センターだけでなく地区の公会所等で実施していく必要があると考えている。

地区の自治会であったり老人クラブに啓発して地域でサポーター養成講座を開催していきたい。

安心見守り隊に関して4月に五反田町、7月に茅広江地区、9月に松阪市西部地区、第二包括と協力して安心見守り隊フォローアップ講座を開催した。

| | |
|------|--|
| | <p>地域で常日頃から見守り体制があり、日々の活動の情報共有、今後の活動の共通の認識を持つことができた。</p> <p>地域において活動に対する温度差が大きく、農村部では常日頃からの見守り隊が地域での変化に気づいたことが共通して見られた。</p> <p>都市部については、意欲的な方が多く意思統一を図り活動につなげていきたい。</p> <p>花岡地区に関しては、認知症サポーター養成講座は多くの方が参加したことがあって、中には自治会長や組長が参加している姿があった。</p> <p>その方に声掛けをして、今後の地域づくりに協力していただけたらと考えている。</p> <p>安心見守り協力店は、第五包括が発行している広報誌「おひさまだより」で見守り協力店への協力依頼を掲載している。</p> <p>個人商店の見守り協力店への協力依頼があったが、反応が悪く今後も継続して啓発していきたい。</p> <p>個人商店の分布状況を把握して協力依頼をしていきたい。</p> <p>見守り声掛け訓練は、現在実施できる地域を選択している。将来的には花岡地区で開催できたらと考えている。</p> <p>実施に当たっては、自治会等の協力が必要で安心見守り隊で意欲的な活動をしている地区に打診していく必要があると思っている。</p> <p>認知症サポーター養成講座の参加率が高い花岡地区で、安心見守り隊フォローアップ講座等へ地域状況をみながら声掛け訓練が実施できるか見極めていきたい。</p> <p>認知症カフェは、第五包括の圏域で開催している認知症カフェの運営支援と助言等を行っている。</p> <p>圏域内にある4つのグループホームと南勢病院と共同で新規の認知症カフェの立ち上げについて協議中で、6月から7月にかけて鈴鹿市、桑名市の認知症カフェの視察に行ってきた。</p> <p>認知症カフェの先進地において、カフェのコンセプトが地域の高齢者サロンとして行っているところが多く、家族の相談機能が弱いというところが多かった。</p> <p>そのような形態でないと集客が見込めないところがあるため、開催地域にあった方向で検討していかなければならない。</p> <p>施設等の職員が業務の合間を縫ってカフェを立ち上げるための会議等に参加してもらっているが、法人に地域貢献の理解を深めて、反映できたらと思っている。</p> <p>全体の評価と課題は、各地区の認知症サポーター養成講座、安心見守り隊養成講座の開催により、着実にサポーター数が増えてきている。</p> <p>日常での見守り活動ができているが、具体的な声掛け訓練の発想には至っていない。</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございました。第一から第五までの地域包括支援センターの認知症推進員の皆さんご苦労さまです。</p> <p>沢山の活動を一生懸命やっていただけてることがよく分かりました。</p> <p>委員の皆さんにご意見をいただきたいのですが、あと10分ぐらいになっています。認知症の部会のリーダーから総括をお願いします。</p> |
| リーダー | <p>認知症ハンドブック作成に関しては、包括支援センターの推進員の皆様にはお力添えをいただいた。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>当初のコンセプトである、ただ配布するのではなく、できる限り手渡しで説明してお渡しをする。各包括さんには有難く思っている。</p> <p>会長から推進員さんは地味でという話があったが、地味で凄いのがこの推進員さんで、この活動の内容、それからハンドブックを作っている時もそうでしたが、熱意、柔軟性、地味で凄いのが推進員さんです。</p> |
| 委員 | <p>認知症の支援に取り組んでいただきありがとうございます。</p> <p>在宅の方で認知の方を抱えているケアマネジャーとしては、どこどこで誰々さんが見付かって良かった。という話もよくあります。</p> <p>私たちもそうですが、啓発していただいていることにより、協力していただいたり、どうかなと声をかけていただいたり、市の方もSOSを活用して、いなくなったけど歩いていたという感じで、皆さん見守っていただいているので、認知症になられても地域で住める環境を作っていただけるように進めていただいているのは非常にありがたい。</p> |
| 会長 | <p>今後も推進していただければと思っています。</p> <p>認知症初期集中支援チームの話もありましたが、松阪地区の医師会館の中に在宅医療介護連携拠点の隣り合わせでできているので、今立ち上げに苦勞している第一地域包括支援センターからも一言、</p> |
| 第一包括 | <p>私は地域包括支援センターの職員として皆さんの報告は大変興味深かったです。</p> <p>普段こんなに丁寧なそれぞれの包括支援センターで担当の皆さんがどんなことを考えて、どんなことを目標で事業をするのか共有する時間はなかなか取れずにいたので、今日の運協はたいへん私にとって参考になりました。</p> <p>これから認知症初期集中支援チームが始まるということで、環境的にも変わっていくが、きっと素晴らしい認知症初期集中支援チームができていくだろと思いました。</p> <p>今後とも皆様ご協力よろしく申し上げます。</p> |
| 会長 | 委員の皆さんご意見はありませんか？ |
| 委員 | <p>私は今障がい者関係の仕事に携わっています。</p> <p>介護保険の方は相談員をやっているだけですが、今年の9月に介護保険法の改正があって、地域包括の重要性、課題を耳にしたことがあります。</p> <p>その中で、これからの5年、10年でなく、もっと激しい勢いで高齢化が進み、認知症率が多くなっていくのが見込まれる。</p> <p>現場の皆さんが苦勞されているのは十分に分かりますが、これまで通りのやり方で良いのか？もう一つ皮をむいて違うやり方で進めていかなければ、本当に松阪市が認知症になっても安心して住めるまちになっていくのか。</p> <p>自分が一人暮らしで74歳になってきて、自分自身がいつなるか不安の中で、今までのやり方でいいのか？一度検討していくのが、5月の介護保険法の改正の意味でも、オレンジプランを読んでないのでわからないが、そういう意味も含めて、この際考えていく必要がある。</p> |
| 会長 | <p>来年の4月から医療と介護の統合、医療保険と介護保険の統合、両方一緒に考えていかないと。社会保障費だけでなく、今委員が言われたようにこれからは医療介護というわけ隔てだけでなく、両方に携わる人たちが、両方のことをよく知る必要がある。今までは縦割りのところがありました。</p> <p>それではいけない時代になっています。</p> |

| | |
|----|---|
| | 医療の立場からこれからの認知症の施策、進め方、特に松阪でどのように進めていけば良いか、よろしかったら教えてください。 |
| 委員 | <p>認知症初期集中支援チームでいろいろ設定していますが、医師会の中でも一般の開業医が一番最前線で患者さんに接する機会が多い。</p> <p>そういう中で一番最前線で早く気がつくような講習会等もしているので、そういうところで早く、意外とそういう目で見ないと臨床の場で認知症になかなか気づかない場合があって、ヒア汗をかく場合がある。</p> <p>多くの医療者が認知症に対する施策に関われるように…そういう方向に進んでいくと思う。</p> |
| 会長 | <p>私の世代の医者は、若いころ認知症の勉強をしたことがない。最近、認知症サポート医という研修で資格を取りました。認知症サポート医は全国で8,000人くらいしかいない。</p> <p>それをもっと1万、2万と増やして、そういうことで私は県の医師会で努力をしています。</p> <p>同時に専門医の先生、認知症に対する専門医の先生というのは、三重県内で数人しかいない。本当に少ないです</p> <p>精神科の先生、神経内科の先生、資格の問題だけではないですが、もっと専門的にやっていただける先生方を増やすということも必要と思います。</p> <p>ご意見いただけますでしょうか。</p> <p>委員、感想をお願いします。</p> |
| 委員 | <p>地域包括支援センターの皆様方には、地域に入って頂きましてお世話をかけています。</p> <p>認知症のことで言いますと松阪市の方向性を改めて皆さん方に知っていただきたい。</p> <p>施策の中で認知症サポーターの養成があります。この養成数は三重県内でもトップクラスです。</p> <p>松阪市は、総合計画というのがある、行政でトップの計画です。その計画の中で、高齢者福祉の推進における重点施策として認知症対策を掲げています。</p> <p>重要なことで、松阪市の特色である。</p> <p>今いろいろと取り組みを言われました。具体的にサポーター養成については平成30年には2万6千人と具体的な数字を目標数値に挙げています。</p> <p>繰り返しになりますが、市の重要課題ということで捉えていることをご承知いただきますようお願いいたします。</p> <p>最近行方不明者が非常に多いです。</p> <p>SOSネットワーク、メール配信が頻繁になります。その中で配信によって、防災無線で捜索をお願いするとメールをみたり放送を聞いたということで、見つけて頂く事例が多くあります。</p> <p>見守り体制は確かなものになってきている実感をしている。</p> <p>今後、重要な部分があるので、協力を是非ともお願いします。</p> <p>地域包括支援センターの位置づけが重要で、この部分に関しては高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画を策定中です。</p> <p>平成30年度から3年間の計画策定の中で、計画のメインとしては地域包括ケアの構築、推進をメインに上げている中で、これを推進していく中では、一番中心的になる中核機関として地域包括支援センターを位置づけています。</p> |

| | |
|----|--|
| | 計画のトップであげているので、地域包括支援センターの機能が発揮されることが重要であるということを行行政として出していることをご承知ください。 |
| 会長 | 普段の3倍くらい話していただき、嬉しいです。 両括弧1と2の協議についてご承認いただけますか？ |
| 委員 | 異議なし |
| 会長 | ご異議がないようですので、ご承認いただいたものとして、両括弧3のその他はないということ。 第2回地域包括運営協議会を終了いたします。 |